

本ガイドラインは、厚生労働省、文部科学省、スポーツ庁をはじめ、日本スポーツ協会や日本オリンピック委員会等より発表されるガイドラインを参考に、活動再開時および再開後における感染症拡大防止のための留意点について、アーチェリー競技の特性を考慮し作成したものです。加盟団体で競技会等開催する時の参考にしてください。

各都道府県協会(連盟)で個々の環境に適したガイドライン作成に取り組んでいただくようお願いいたします。

なお、開催に際しては、会場地の都道府県の方針や施設が所在する区市町村に従うことが大前提となります。事前に相談をして実施の判断をしてください。

感染リスクへの対応が整わない場合は中止又は延期するよう、慎重な対応をお願いいたします。

競技会開催におけるガイドライン

1. 感染防止のために主催者が決めたお願いや措置の遵守、主催者の指示に従うこと。
2. 主催者が定めた各大会参加規程に従い申請された監督・コーチのみ競技場への立ち入りを許可し無観客試合が望ましい。
3. 無観客試合が基本であるが、応援者(引率者・保護者含む)の入場については各主催者で判断する。

A 観戦応援者の入場を許可する際の注意事項

- ①検温を行う。
- ②マスクの着用を常時お願いする。
- ③咳エチケットへのご協力をお願いする。
- ④手洗いや手指消毒の徹底をお願いする。
- ⑤観戦・応援等は、ソーシャルディスタンス(フィジカルディスタンス)を守らせる。

B 以下に該当する方のご来場・入場・参加をお控えさせてください。

(選手を含め全員対象)

- ①入場時の検温により、37.5℃以上の発熱が認められた方。
- ②過去1週間以内から現在までに体調不良があった方。
- ③強い倦怠感、感冒様症状(咳、咽頭痛、息苦しさ等)
- ④味覚・嗅覚異常などの異変がある方。
- ⑤PCR検査陽性歴があり、有症状者では、発症日から10日未満、かつ、症状軽快後72時間以内の方。症状軽快後24時間経過から24時間以上の間隔をあげ、2回のPCR検査で陰性を確認できていないか、無症状病原体保有者では、陰性確認から10日未満の検体採取日から6日間経過後、24時間以上の間隔をあげ2回のPCR検査陰性を確認できていない方。
- ⑥濃厚接触者として自宅待機中の方。
- ⑦家族が濃厚接触者として自宅待機中の方。
- ⑧家族に①～④いずれかの体調不良者がある方。
- ⑨海外から帰国(日本に入国)して14日未満。
- ⑩マスクを着用していない、着用できない方。

※入場に際しての対応

上記B①～⑩の項目を記載したチェック用紙を配布し項目への申告と、氏名・連絡先等を記入していただき受け取る。

チェック用紙の記入項目について記載漏れがないかの確認を行い、その後検温をして本人に体温を記入していただき、回収する。

回収したチェック用紙は約1カ月間保管し、その後は必ず廃棄をする。

4. 競技会場でのガイドライン

- ①入場が許可される審判員・役員・監督・コーチはマスクを着装して進行する。
- ②入場に際して全員検温を行い、会場内にアルコール消毒を設置する。
- ③大会プログラムを作成して参加選手と所属を確認する。
- ④受付・式の簡素化を行う。距離を取って対面を避け会話は控えめにする。
- ⑤選手も支障のない範囲でマスクの着装をお願いする。
矢取・控え所での待機時でのお願いとする。
- ⑥巡視員を配置し三つの密（密閉、密集、密接）の監視を行う。
- ⑦会場内での会話をできるだけ避け、大声はご遠慮するよう要請する。
- ⑧選手間のスペースを1m以上確保する。例：6mピッチに2名から6名。
- ⑨控え場所での間隔は1m以上空間を確保するようお願いする。
- ⑩監督・コーチは指定されるウェイトングラインを指導ポジションとする。
- ⑪握手やハイタッチ・グータッチなどの行為を行わないこと。
- ⑫スコアカード類等の回収は直接選手より受け取らない。
回収ボックス等を準備して対応する。
- ⑬マスコミ各社には規制線を設けて、選手との接触を極力避ける対策をする。
- ⑭指定されたエリア内で撮影・取材をお願いする。
- ⑮選手へのインタビュー・個別取材等は競技終了後のみとする。
- ⑯1m以上開けての取材で、マスクの着用をお願いする。
- ⑰タオルの共用はしない。
- ⑱飲料は自分専用のもを飲み、回し飲みはしない。
- ⑲室内で実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行うこと。
- ⑳終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する。

5 審判、運営スタッフ

- ①検温を行い、日々健康管理に注意をし、健康に不安があるときは参加を見送る。
- ②審判中にカゼ症状が出た場合は積極的に中止し、速やかに帰宅する。
- ③会場への移動は車が望ましいが、公共交通機関利用時にはマスクの着用と距離を取り会話も控える。
- ④会話において距離についてしっかりと配慮する。
- ⑤審判控え所での距離についてしっかりと配慮する。
- ⑥マスクを着用し、可能であればフェイスシールドも併せて利用することが望ましい。但し、熱中症予防の観点からフェイスシールドのみでの使用を認める。
- ⑦定期的な手のアルコール消毒を行うこと。
- ⑧弓具検査等で選手の用具に触れるときは、ゴム手袋（使い捨て）を使用する。
- ⑨無理な時は触った個所の消毒をして返すこと。
- ⑩選手に持たせ、検査できる状態をお願いすることが望ましい。
- ⑪判定を求められたときは、選手や監督との距離を十分（1m以上）にとり最低限度の会話とする。
- ⑫選手との不要な接触は避ける。
- ⑬飲料水は自分専用のボトルを使用する。
- ⑭タオルの共用はしない。

- ⑮アイスボックス等は設置しない。
- ⑯役員テントの周囲カバーの設置をやめて、オープンとする。
- ⑰審判員同士の振返りミーティングは基本行わない（行う際は、マスク着用
3 密考慮で短時間に 素早く行う。
- ⑱該当大会後 2 週間以内に感染が発覚した場合は、審判長へ連絡を入れる。

会議・研修会・合宿等のガイドライン

三つの密」①密閉空間（換気の悪い密閉空間である）、②密集場所（多くの人が密集している）、③密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）が重なる状況を避けるようにし、感染を回避するとともに、他人に感染させないような環境を提供。

- ①人混みや近距離での会話、多数の者が集まり室内において大きな声を出すことや密接した状況で呼気が激しくなるような運動を行うことを避ける。
- ②100 名を超える研修会は会場を小分けして開催するなど工夫する。
- ③会場や日程を分割して開催するなど。
- ④一堂に会することを避けて全体会はテレビ中継にし、最初からグループでスタートするなど内容の工夫をする。
例えば都内で通い開催予定だった研修を取って地方で開催することで外部との接触リスクを極力減らす方法も検討する。
- ⑤通常の収容数よりも広めの会場を確保し、1 テーブルの間隔を広くするなど、人と人の間の距離を離す工夫する。
- ⑥WEB 中継等を利用して開催するなどの検討も必要。
- ⑦大人数で集まるリスク、移動のリスクを減らすために各エリアで小規模に集合したり、参加者を WEB 中継等でつなぐなどの工夫をする。
- ⑧事前の健康チェックなどをおこなう。
受付時に検温などのチェックを行ない、こまめに休憩をはさみ、休憩時や定時的に室内の換気をする。
- ⑨発熱・咳等の症状がみられる方は、参加（出席）をお控えくださるようお願いする。
- ⑩会場入り口にアルコール消毒を設置する。
消毒用アルコールが入手困難等の事情で設置されない場合は、会場の水道で石鹸等により手洗いをお願いする。
- ⑪研修会場内では、マスクの着用をお願いする。マスクは各自でご用意する。
- ⑫咳やくしゃみの際は、必ずマスクやハンカチ、ティッシュ等で口元を覆うなど、咳エチケットを守ることをお願いする。
- ⑬会場に長居しての談笑等は控える。

※以上感染防止策については、現段階で得られている知見等に基づき作成しています。

今後、状況に応じて見直しを行う可能性がありますので、ご留意ください。

※ 公益財団法人日本スポーツ協会が作成した「スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について」も参考にしてください。

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4164>

※ 首相官邸の「感染症対策へのご協力をお願いします（チラシ）」
会場等の掲示に活用ください。

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html#c5>

※ 厚生労働省発表の新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を今後、日常生活の中で取り入れ実践しましょう。

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000641743.pdf>

公益社団法人全日本アーチェリー連盟